

平成 14 年度 琉球大学 2 次試験前期日程 (数学問題)

理・工・医・農・教育学部 平成 14 年 2 月 25 日

- 理・工・医・教育 [数学] 学部は, [1] ~ [4] 数 I・II・III・A・B・C(120 分)
- 農・教育 [理科教育・技術教育・学校心理学・児童教育・障害児教育・情報教育
コース・教育カウンセリング A 群] 学部は, [5], [6] 数 I・II・A・B(60 分)

[1] A を 2 次正方行列とする. $A^2 + A + E = O$ が成立するとき, 次の問いに答えよ. ただし, E は単位行列, O は零行列である.

(1) $A^3 = E$ を示せ.

(2) $(A - E)(2A^2 + A)$ および $(A - tE)(A^2 + tA + t^2E)$ を計算する事により, すべての実数 t に対して $A - tE$ は逆行列をもつ事を示せ.

[2] A, B, C の 3 人が自分の名前を書いたカードを各自 3 枚ずつ 1 つの箱の中に入れる. この箱の中から A, B, C の順にそれぞれ 1 枚ずつカードを引くとする. このとき, 次の問いに答えよ. ただし, 引いたカードは元に戻さないものとする.

(1) ひとりだけが自分以外の名前のカードを引く確率を求めよ.

(2) ひとりだけが自分の名前のカードを引く確率を求めよ.

(3) 全員が自分以外の名前のカードを引く確率を求めよ.

[3] $1 \leq a \leq e$ とする. $0 \leq x \leq 1$ の範囲で, 曲線 $y = e^x - a$ と x 軸で挟まれた部分の面積を $S(a)$ とする. このとき, 次の問いに答えよ.

(1) $S(a)$ を求めよ.

(2) $S(a)$ の最小値とそのときの a の値を求めよ.

[4] 次の問いに答えよ.

(1) $0 < x < \frac{\pi}{2}$ のとき, $\frac{2}{\pi}x < \sin x$ が成り立つ事を示せ.

(2) $\lim_{r \rightarrow \infty} r \int_0^{\frac{\pi}{2}} e^{-r^2 \sin x} dx$ を求めよ.

5 次の問いに答えよ .

- (1) 複素数 $1 + 2i$ を解にもつ実数係数の x の 2 次方程式で , x^2 の係数が 1 であるものを求めよ .
- (2) a, b を実数とする . 4 次方程式 $x^4 - x^3 + 2x^2 + ax + b = 0$ が $1 + 2i$ を解にもつとき , a, b の値を求めよ .

6 $0 \leq m \leq 1$ とする . $0 \leq x \leq 1$ の範囲で , 曲線 $y = x^2$ と直線 $y = mx$ で挟まれた部分の面積を $S(m)$ とする . このとき , 次の問いに答えよ .

- (1) $S(m)$ を求めよ .
- (2) $S(m)$ が最小となる m の値と , そのときの $S(m)$ の値を求めよ .

正解

1 (1) $A^3 - E = (A - E)(A^2 + A + E)$ であるから, $A^2 + A + E = O$ のとき

$$A^3 - E = (A - E)O \quad \text{ゆえに} \quad A^3 = E$$

(2) $A^2 = -A - E$, $A^3 = E$ であるから

$$\begin{aligned} (A - E)(2A^2 + A) &= (A - E)\{2(-A - E) + A\} \\ &= (A - E)(-A - 2E) \\ &= -A^2 - A + 2E \\ &= -(-A - E) - A + 2E = 3E \\ (A - tE)(A^2 + tA + t^2E) &= A^3 - t^3E \\ &= E - t^3E = (1 - t^3)E \end{aligned}$$

したがって $t = 1$ のとき $(A - tE)^{-1} = \frac{1}{3}(2A^2 + A)$

$$t \neq 1 \text{ のとき } (A - tE)^{-1} = \frac{1}{1 - t^3}(A^2 + tA + t^2E)$$

よって, すべての実数 t に対して $A - tE$ は逆行列をもつ.

- 2 (1) A だけが自分以外の名前のカードを引く確率は、右の計算から

$$\frac{1}{28} + \frac{1}{28} = \frac{1}{14}$$

A	B	C	確率
B	B	C	$\frac{3}{9} \times \frac{2}{8} \times \frac{3}{7} = \frac{1}{28}$
C	B	C	$\frac{3}{9} \times \frac{3}{8} \times \frac{2}{7} = \frac{1}{28}$

B または C が自分以外の名前のカードを引く確率もこれに等しい。

よって、求める確率は $\frac{1}{14} \times 3 = \frac{3}{14}$

- (2) A だけが自分の名前のカードを引く確率は、右の計算から

$$\frac{2}{168} + \frac{6}{168} + \frac{6}{168} + \frac{9}{168} = \frac{23}{168}$$

A	B	C	確率
A	A	A	$\frac{3}{9} \times \frac{2}{8} \times \frac{1}{7} = \frac{2}{168}$
A	A	B	$\frac{3}{9} \times \frac{2}{8} \times \frac{3}{7} = \frac{6}{168}$
A	C	A	$\frac{3}{9} \times \frac{3}{8} \times \frac{2}{7} = \frac{6}{168}$
A	C	B	$\frac{3}{9} \times \frac{3}{8} \times \frac{3}{7} = \frac{9}{168}$

B または C だけが自分の名前のカードを引く確率もこれに等しい。

よって、求める確率は $\frac{23}{168} \times 3 = \frac{23}{56}$

- (3) A, B, C の 3 人が自分の名前のカードを引く確率は

$$\frac{3}{9} \times \frac{3}{8} \times \frac{3}{7} = \frac{3}{56}$$

求める確率は、これと (1), (2) の余事象の確率であるから

$$1 - \left(\frac{3}{56} + \frac{3}{14} + \frac{23}{56} \right) = \frac{9}{28}$$

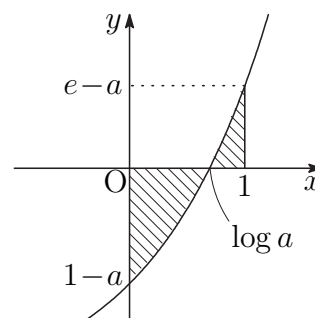
3 (1) $y = e^x - a$ と x 軸との交点の x 座標は

$$e^x - a = 0 \quad \text{すなわち} \quad x = \log a$$

$e^x - a$ の原始関数の 1 つを

$$F(x) = e^x - ax$$

とおくと



$$\begin{aligned} S(a) &= - \int_0^{\log a} (e^x - a) dx + \int_{\log a}^1 (e^x - a) dx \\ &= - \left[F(x) \right]_0^{\log a} + \left[F(x) \right]_{\log a}^1 \\ &= F(0) + F(1) - 2F(\log a) \\ &= 1 + (e - a) - 2(a - a \log a) \\ &= 2a \log a - 3a + e + 1 \end{aligned}$$

(2) (2) の結果から $S'(a) = 2 \log a - 1$

したがって, $S(a)$ の増減表は $(1 \leq a \leq e)$

a	1	...	\sqrt{e}	...	e
$S'(a)$		-	0	+	
$S(a)$		↘	極小	↗	

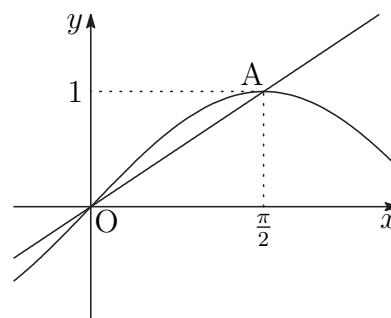
よって $a = \sqrt{e}$ のとき最小値 $S(\sqrt{e}) = e - 2\sqrt{e} + 1$

4 (1) $f(x) = \sin x$ とすると $f''(x) = -\sin x$

ゆえに, $0 < x < \frac{\pi}{2}$ において $f''(x) < 0$

曲線 $y = f(x)$ 上の 2 点 $O(0, 0)$, $A\left(\frac{\pi}{2}, 1\right)$
を通る直線を $y = g(x)$ とすると

$$g(x) = \frac{2}{\pi}x$$



曲線 $y = f(x)$ は, $0 < x < \frac{\pi}{2}$ において上に凸であるから

$$g(x) < f(x) \quad \text{すなわち} \quad \frac{2}{\pi}x < \sin x$$

(2) (1) の結果から, $0 < x < \frac{\pi}{2}$ のとき

$$-r^2 \sin x < -\frac{2r^2}{\pi}x \quad \text{ゆえに} \quad 0 < e^{-r^2 \sin x} < e^{-\frac{2r^2}{\pi}x}$$

$$\text{したがって} \quad 0 < \int_0^{\frac{\pi}{2}} e^{-r^2 \sin x} dx < \int_0^{\frac{\pi}{2}} e^{-\frac{2r^2}{\pi}x} dx$$

$$\text{ここで} \quad \int_0^{\frac{\pi}{2}} e^{-\frac{2r^2}{\pi}x} dx = \left[-\frac{\pi}{2r^2} e^{-\frac{2r^2}{\pi}x} \right]_0^{\frac{\pi}{2}} = \frac{\pi}{2r^2} (1 - e^{-r^2})$$

上の 2 式から, $r > 0$ のとき

$$0 < r \int_0^{\frac{\pi}{2}} e^{-r^2 \sin x} dx < \frac{\pi}{2r} (1 - e^{-r^2})$$

$\lim_{r \rightarrow \infty} \frac{\pi}{2r} (1 - e^{-r^2}) = 0$ であるから, はさみうちの原理により

$$\lim_{r \rightarrow \infty} r \int_0^{\frac{\pi}{2}} e^{-r^2 \sin x} dx = 0$$

- 5 (1) 実数係数の2次方程式が $1+2i$ を解にもつとき、これと共役な複素数 $1-2i$ もこの方程式の解であるから、

$$(1+2i) + (1-2i) = 2, \quad (1+2i)(1-2i) = 5$$

よって、求める方程式は $x^2 - 2x + 5 = 0$

- (2) 実数係数の4次方程式 $x^4 - x^3 + 2x^2 + ax + b = 0$ が $1+2i$ を解にもつので、これと共役な複素数 $1-2i$ もこの方程式の解である。したがって、(1)の結果から4次式 $x^4 - x^3 + 2x^2 + ax + b$ は $x^2 - 2x + 5$ を因数にもつ。

$$x^4 - x^3 + 2x^2 + ax + b = (x^2 - 2x + 5)(x^2 + x - 1) + (a-7)x + (b+5)$$

上式から $a-7=0, b+5=0$ すなわち $a=7, b=-5$

- 6 (1) $y = x^2$ と $y = mx$ の共有点の x 座標は

$$x^2 = mx \quad \text{これを解いて} \quad x = 0, m$$

$x^2 - mx$ の原始関数の1つを

$$F(x) = \frac{1}{3}x^3 - \frac{m}{2}x^2$$

とおく。 $0 \leq m \leq 1$ より、 $S(m)$ は

$$\begin{aligned} S(m) &= -\int_0^m (x^2 - mx) dx + \int_m^1 (x^2 - mx) dx \\ &= -\left[F(x) \right]_0^m + \left[F(x) \right]_m^1 \\ &= F(0) + F(1) - 2F(m) \\ &= 0 + \left(\frac{1}{3} - \frac{1}{2}m \right) - 2 \left(-\frac{1}{6}m^3 \right) = \frac{1}{3}m^3 - \frac{1}{2}m + \frac{1}{3} \end{aligned}$$

- (2) (1)の結果から $S'(m) = m^2 - \frac{1}{2}$

したがって、 $S(m)$ の増減表は次のようになる。

m	0	...	$\frac{\sqrt{2}}{2}$...	1
$S'(m)$		-	0	+	
$S(m)$			極小		

よって $m = \frac{\sqrt{2}}{2}$ のとき最小値 $S\left(\frac{\sqrt{2}}{2}\right) = \frac{2-\sqrt{2}}{6}$

